

第41回 日本映像民俗学の会 (2018/10/22)

作者氏名 高倉浩樹 (東北大学)

題目：仕事場としての深いトンネル坑道：釜石鉱山の持続可能性、鉄鉱石から水へ  
(完成年 2018年9月、撮影年 2018年3月、上映時間：22分)

#### 作品概要

釜石鉱山の坑道ツアーの観察映画。採掘産業といえば過酷な労働史や環境汚染というイメージがある。だが、実際の坑道はいかに掘られたのか、そこでどのような仕事が行われてきたのか、といったことは意外と知られていないのではないだろうか。坑道ツアーの解説や現在そこで働く人の取材から、岩石に囲まれ鉱石を見極める人々の「文化としての採掘」を明らかにする。

#### 制作ノート

客員教授として東北大に滞在していた研究者のテーマが、ロシアやモンゴルの廃止鉱山についての地理学・社会学的研究だった。ロシアやモンゴルの場合、鉱山が廃止されればそのまま放置される。それに対し、日本は観光化されるなどの展開があり、それに関心をもったため、一緒に見学に行こうと誘われた。受入研究者としての義務から同行したが、鉱山内に入ると聞いていたためカメラよりはビデオのほうが記録に適していると思い持参。実際に参加すると思いがけない面白さがあり、また同時に鉱山研究というのは人類学・民俗学的脈絡で大きな可能性があるのではないかと感じた。その思いを映像化した。

#### 上映歴

・2018年9月18日国際ワークショップ Coastal Communities and Disaster: Perspectives from Asia (コペンハーゲン大学災害研究センター、デンマーク) 「亙理のサケ定置網漁 (完成年 2017年、撮影年 2015年10月、上映時間 12分)

・2017年3月26日：第39回日本映像民俗学の会「神楽お面の仮奉納と慰霊一東日本大震災五年目の宮城県山元町の天神社の例祭」 (完成年 2017年、撮影年 2016年4月、上映時間 20分)

・ Youtube「トナカイ遊牧民へ調査写真をもどす旅」(完成年 2012年、撮影年 2012年3月、上映時間 13分) <https://www.youtube.com/watch?v=IcJlKnQ-8OI>

## 略歴

高倉浩樹（たかくらひろき）1968年生、東北大学東北アジア研究センター教授。社会人類学の観点からシベリアの民族誌・日本北方史に関わる調査研究を実施するとともに、人類史における寒冷適応に関わる生態人類学的な考察をすすめてきた。そのなかで研究成果の社会還元の方法として展示に関心をもち、映像の力に気がついた。東日本大震災以降は、東北地方沿岸部での民俗調査を行っている。最近の仕事として「**Agricultural Local Knowledge as Time Manipulation: Paddy Field Farmers after the Great East Japan Earthquake of 2011**」(Asian Ethnology 77-1/2, 2018)、『総合人類学としてのヒト学』(編著、放送大学教育振興会、2018年)、『寒冷アジアの文化生態史』(編著、古今書院、2018)、『震災後の地域文化と被災者の民俗誌：フィールド災害人文学の構築』(共編著、新泉社、2018年)。